

夢のかけはし



花いっばいの愛情を注いで。

昭和18年生まれ。ローズ・コンシェルジュの資格を持ち、ばら祭り期間中の栽培指導などを担う。新生町の自宅は常に花であふれ、冬はイルミネーションが道行く人を楽しませる。散歩と温泉で汗を流すのが楽しみと語る元・自衛隊員。愛称は「徳さん」(76歳)

きれいな花が咲くことを想像すると、自然と手入れに足が向きます。話はできませんが、バラも生き物です。毎日朝・夕に様子を見ていけば、虫や病気が出たことがわかります。一生懸命手入れをすれば見事な花を咲かせてくれることが、花を育てる一番の喜びです。自分で花を育てるようにしたのは、初めて自宅を建てた40年ほど前。その頃はパンジーやビオラなどプランターで育てる花が中心でしたが、しばらくして知人からバラの苗をもらったことでバラの栽培を始めました。その後「ばら栽培教室」を受講し「ばらっぽいコンクール」等にも出展。そして平成22年に「本場イギリスの

バラを見てみたい」と、現地で栽培方法やガーデニングについて教わったことが、ますますバラにめり込むきっかけとなりました。バラ愛好者のグループ「花*薔薇*会」でも、様々な活動を行ってきました。特に会員や関係者の皆さんと、ばら園内に約1万本のイングリッシュ・ローズを植えたことも印象深い思い出ですね。かのやばら祭り期間中は、要望があれば団体客への園内ガイドもさせていただいています。お客様から「バラをうまく育てられないがどうすればよいか」とよく相談を受けるのですが、話を聞くときも定や植え替えなどの手入れをしていないケースがほとんど。季節

頼れるローズ・コンシェルジュ

とく だ みず ほ
徳田 瑞穂 さん

や状況に応じた植え替えや肥料・水の適切な与え方など、的を絞ってお教えします。ばら園の信用にも関わるため、いい加減な説明はできません。バラを買った方に「かのやばら園に来てよかった」と喜んでもらえるよう、丁寧なアドバイスを心掛けています。あまり知られていませんが、花の水やりには大切な意味があります。水をやると土に空気が送り込まれるので、酸素が取り込まれ根の働きが良くなるんです。こういうことを知ると、毎日の水やりも楽しくなりませんか。花づくりは、土づくりから。皆さんも花のこともっと知って、楽しみながら育ててみてはいかがでしょうか。



【右】自宅の「バラを主体としたガーデン」では約70種類のバラを100鉢栽培。9月は色鮮やかなブーゲンビリアが咲き誇っていた。



【左】山形屋での「バラの育て方講座」でも人気を博す。

11月19日(火) 9時5分から FMかのや に 徳田 瑞穂 さんが出演